

## ドキュメンタリー映画賞

「SAYAMA みえない

手錠をはずすまで」

応募は41作。他に2次「した」と「SAYAMA」、選考候補は「イラクチ」「原発事故を取材し続ける 그리스に浮かぶ平和」「ホルムレス理事長」「夢は牛のお医者さん」「フタバから遠く離れて第二部」「三里塚に生きる」。粒ぞろいで拮抗<sup>きっこう</sup>。「感動

SAYAMA、フタバ各3、三里塚2、夢、ホルムレス各1。上位2作での決選はSAYAMA 3、フタバ2。

△講評▽狭山ではなく「SAYAMA」が、この作品の肌触りを象徴しているのだろう。狭山事件は劇映画でも作られているが、ドキュメンタリーとなれば、さぞや理詰めにハードかと思いきや、何とラブストーリーではないか。石川一雄、早智子夫婦の日常をたおやかに描き、声高に叫ばないからこそ、逆にじわじわとしみてくる。冤罪<sup>えんざい</sup>そのものへの怒りが湧くのだ。途中何度か挿入される枯れたヒマワリのショット。咲き誇ったラストシーンは祈りだ。

(塩田時敏)